

人を基軸にした経済循環

—「ヒューマン・エコ・サイクル」と「α世代への投資」—

以下の「基本的考え方」に基づき、素案に示した「経済産業政策」と「税制改革」の内容を精査していくことを、経済調査会報告書策定に向けた「骨格」とする

I 基本的考え方

日本経済は人口減少、競争力低下、財政悪化という難題に直面していました。その中で、コロナ禍に遭遇し、デジタル化の遅れに象徴されるように、競争力低下の遠因となっている様々な事実がより一層明らかになりました。

人が企業を支え、企業が産業を支え、産業が経済を支え、経済が生活を支えています。そして、その生活が人を支えています。

「人を基軸にした経済循環」を円滑に、創造的に、発展的に回していくことが、経済政策の役割です。

人が技術を生み、サービスを生み、企業と産業と経済を支えていきます。その機能が効果的に発揮されることで「人を基軸にした経済循環」が回り続け、経済が発展、成熟して人の生活を豊かなものにしていきます。

そうした観点から、人の能力と個性を育み、ひとり一人がそれぞれの持ち味を活かして様々な分野で活動、活躍できる社会を創ることが、政府にとって必達の役割です。

この間、地球温暖化、気候変動に対する懸念が高まっています。台風や豪雨による洪水や土砂災害が頻発しており、各国が「カーボンニュートラル（温暖化ガスゼロ）」に向けた政策を加速させています。

その動きと相俟って、SDGs（持続可能な開発目標）やESG（環境・社会・企業統治）投資への関心が高まっています。国も産業も企業もSDGsやESG投資を踏まえた政策や経済活動に注力することが期待されます。

教育、社会保障にとどまらず、技術革新や産業政策においても、SDGsとESG投資を踏まえた政策を目指します。

「人を基軸にした経済循環」＝「ヒューマン・エコ・サイクル（HEC Human Eco Cycle）」を円滑に、創造的に、発展的に回すための政府を実現し、それに資する政策を追求します。「エコ」は経済の「eco」「エコロジー」の「eco」、生態系（エコシステム）の「eco」に重なります。

技術も企業も産業もそれを生み出すのは次世代です。地球や環境を引き継ぎ、未来にわたって保全していくのも次世代です。現在20歳以下の世代は「α（アルファ）世代」と呼ばれていますが、「ヒューマン・エコ・サイクル」は「α世代への投資」でもあります。

白地から絵を描くわけではありません。子育てや教育の課題、技術革新や競争力の低迷、事業承継に悩む中小企業、変革に直面する大企業、医療や介護の懸案など、目の前にある現実を冷静かつ的確に認識し、それぞれを着実に改善していくための政策を積み上げます。

「正直な政治」「偏らない政治」「現実的な政治」を旨とする国民民主党は、「人を基軸にした経済循環」が円滑に、創造的に、発展的に回る政策を追求し、「ヒューマン・エコ・サイクル」と「α世代への投資」を実現します

II 経済産業政策

○ 今後、以下の項目について、素案の内容を精査し、確定していく。

家計第一の経済政策

2. 経済を支える豊かな中間層の再生

第4次産業革命の支援
成長戦略・未来先取り政策
所得再分配機能の回復
消費税の抜本改革
財政金融政策のコロナ禍対応

Ⅲ. 税制改革

○ 今後、以下の項目について、令和3年度政府税制改正の顛末も踏まえ、「素案」の内容を精査し、確定していく。

消費税

2. 所得税

法人税等（企業負担のあり方）

自動車関係諸税 家計支援・第4次産業革命対策

住宅関連税制等 家計支援

相続税・贈与税

医療・介護の控除外対象消費税

地方税財政

新しい公共税制（寄付金税制）

災害復旧・復興支援税制

課税の公平性・利便性の確保

その他

以 上